

令和6年度 第2回 南城市地域公共交通会議資料

地域公共交通計画策定に向けた調査・検討の進め方

令和6年8月30日

南城市地域公共交通会議

1 地域公共交通計画について

1.1 地域公共交通計画の概要

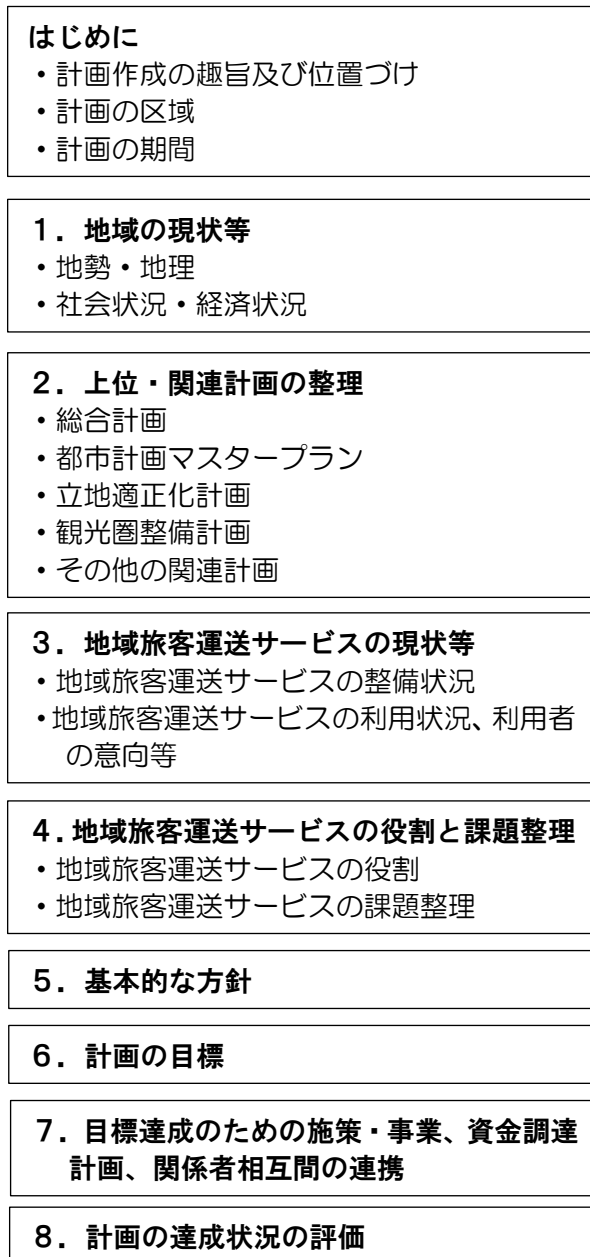
- 地域公共交通計画は、「地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿」を明らかにする「マスタープラン」として役割を果たす計画であり、令和 2 年度の法改正において創設されました。
- 地域公共交通計画では、バスやタクシーといった既存の公共交通に加え、必要に応じて自家用有償旅客運送やスクールバス、福祉運送、病院・商業施設・宿泊施設・企業などの送迎サービス等の地域な多様な輸送資源を活用することで、持続可能な地域旅客運送サービスの提供を求めています。
- 本市では、平成 28 年度に「南城市地域公共交通網形成計画」を策定し、令和 8 年度までが計画期間となっていますが、計画制度の見直しや、令和元年 10 月の再編により、網計画に示した施策は概ね実施されたことから、令和 6 年度及び 7 年度の 2 カ年で網計画を更新し、地域公共交通計画を策定することになりました。



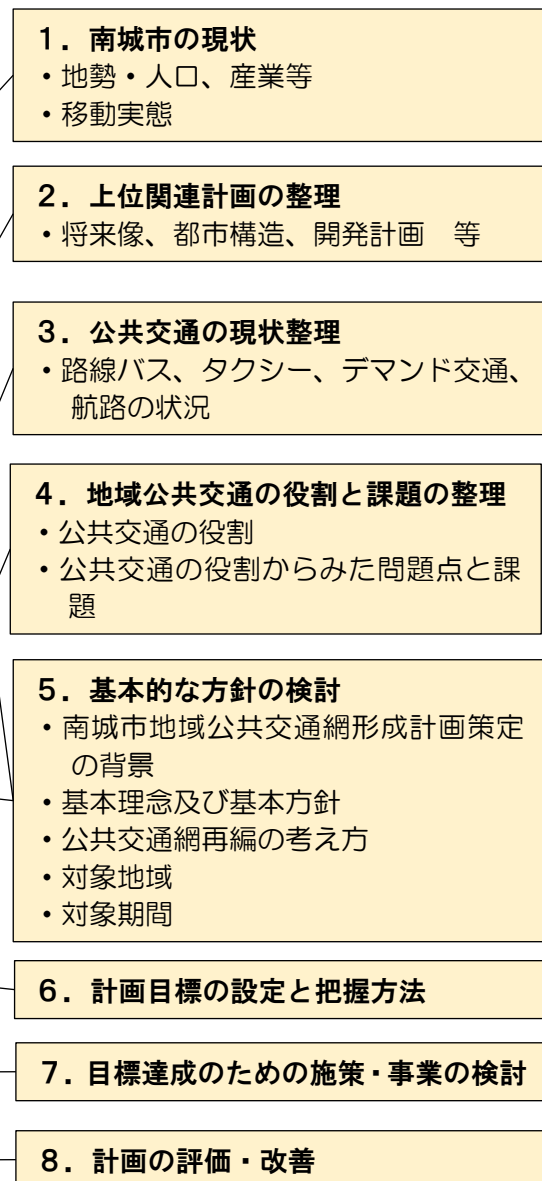
1.2 地域公共交通計画の構成

- 地域公共交通計画は、大きく地域や公共交通の現状や課題に関する項目と、基本方針や目標、施策等を示す計画の本編で構成されます。
- 網計画と手引きに示されている構成例は概ね対応しており、現在の計画とほぼ同様の構成になります。

【手引きにおける構成例】



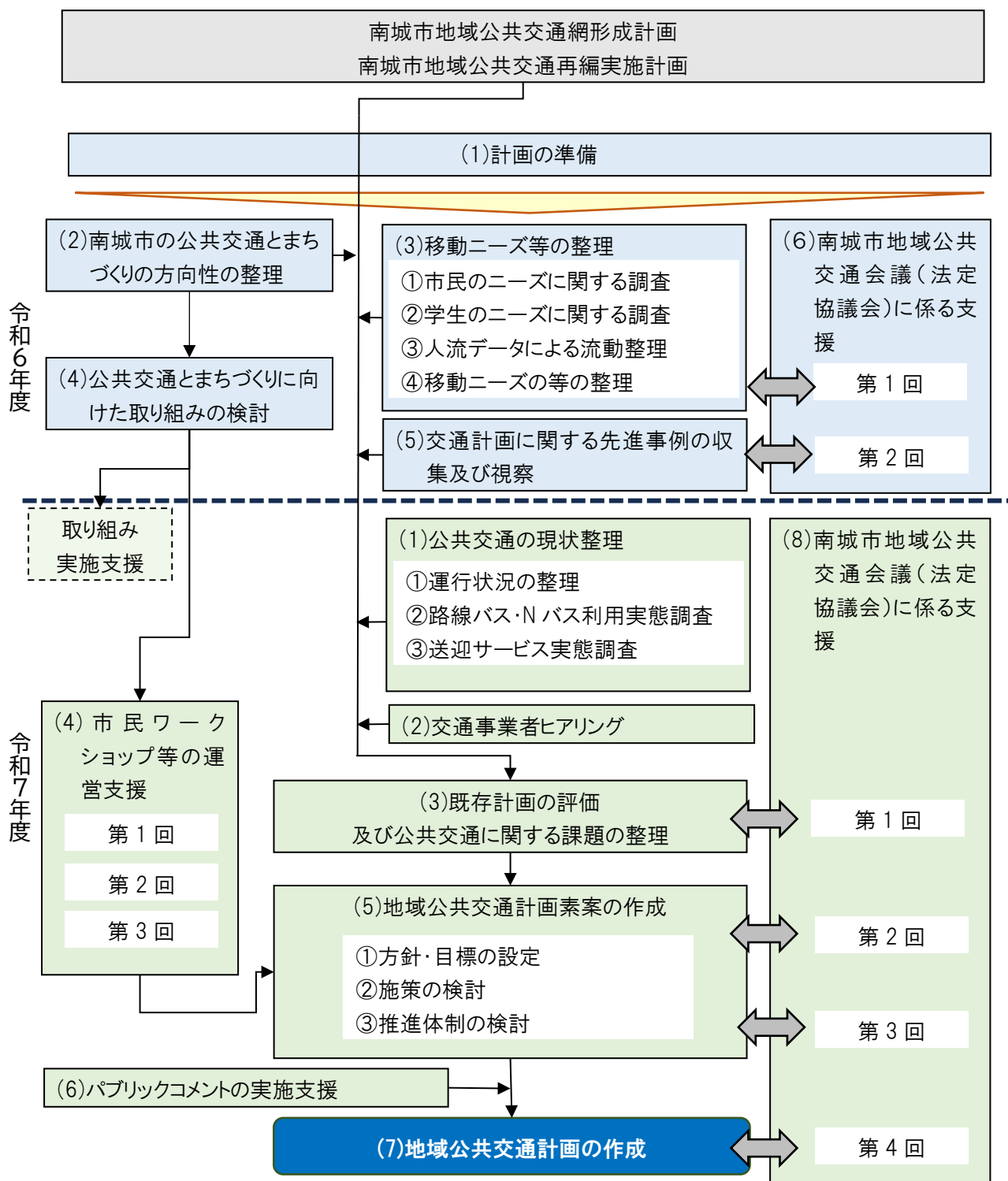
【網計画の構成】



2 地域公共交通計画策定に向けた調査・検討

2.1 計画策定の流れ

●地域公共交通計画は、令和6年度及び令和7年度の2箇年で調査、検討を行い作成します。



2.2 令和 6 年度に実施予定の調査の実施概要

(1) 市民アンケート

- 市民の移動実態や移動ニーズ、公共交通に対する評価等を把握するため、市民を対象としたアンケート調査を実施します。

表 1.市民アンケートの実施概要

項目	内容
調査目的	市民の日常的な移動実態や公共交通の利用状況等の把握
調査対象	南城市内居住の 18 歳以上の方
調査実施方法	自治会長による配布、郵送回収
配布票数	73 自治会×30 部＝2,190 部 ※人口が多い行政区については配布部数を追加予定
回収目標	回収率 25%と想定して約 700 票
調査実施時期	令和 6 年 9～12 月（調査実施は 10～11 月を想定）
主な把握項目	●属性（性別、年代、居住地、運転免許証の有無、車の保有の有無等） ●日常生活における移動実態（通勤、通学、買い物、通院、その他私用の目的別に、目的地、移動手段、頻度を把握） ●公共交通の利用実態（路線バス、N バス、おでかけなんじい等の認知度、利用の有無、利用頻度、路線バス減便後の移動状況の変化、公共交通を利用しない理由 等） ●公共交通に対する評価（公共交通の問題点、満足度、要望等） ●施策に対する意向（施策案に対する利用意向・条件） ●将来の移動に関する意向（現在の利用意向と 10 年後の利用意向、運転免許証の返納意向、将来の移動に対する不安）

【把握項目】

【分析イメージ】

属性 ・年代、居住地 ・運転免許証の有無 等	●分析のための基本データ、年代や、居住地、運転免許証の有無別等に公共交通の利用状況や評価を把握
日常生活における移動実態 ・移動目的別の目的地、移動手段、頻度 等	●年代や地域による移動先や移動目的等の違いの分析 ●おでかけなんじい利用の高齢者と非利用の高齢者の比較や、経年比較によりおでかけなんじい等導入の効果を把握 ●知念地区の路線バス・N バス利用率や外出頻度の経年比較により路線バス減便の影響を把握
公共交通の利用実態 ・公共交通の認知度、利用の有無、利用頻度 ・路線バス減便後の変化 ・公共交通を利用しない理由 等	●年代や地域による N バス、おでかけなんじいの利用状況の違いの分析 ●N バス・おでかけなんじいと路線バスとの乗り継ぎ実態の把握 ●路線バス減便後に影響があった方の属性分析、減便後の移動状況の変化の分析
公共交通に対する評価 ・公共交通の問題点 ・公共交通の満足度 ・公共交通への要望 等	●網計画の目標達成状況の確認 ●年代や地域、公共交通の利用の有無による評価の違いの分析 ●経年比較による問題点の改善状況の把握 ●交通手段別の要望の整理
施策に対する意向 ・施策案に対する意向、利用条件 等	●年代や地域による施策の利用意向の違いの分析 ●公共交通利用者と、非利用者の施策利用意向・条件の違いの分析
将来の移動に関する意向 ・現在と 10 年後の公共交通利用意向 ・運転免許証の返納意向 ・将来の移動に対する不安	●年代や地域による将来の移動に不安を持っている方、免許返納意向等の違いの分析 ●10 年後に公共交通の利用が増えると回答した方の属性分析 ●公共交通の利用の有無による将来の移動に対する不安の有無の分析

(2) 小中高校生アンケート

- 児童・生徒の移動実態や移動ニーズ、公共交通に対する評価等を把握するため、南城市に居住する小中高校生を対象としたアンケート調査を実施します。

表 2.小中高校生アンケートの実施概要

項目	内容
調査目的	小中高生の登下校の実態や公共交通の評価等の把握
調査方法	学校を通じてチラシを配布、チラシに記載された QR コードから WEB で回答（小学生は保護者による回答を想定）
調査実施時期	令和 6 年 9 月～12 月（調査実施は 10 月を想定）
把握項目	●属性（学年、居住地、送迎可能な家族の有無） ●登校・下校の実態（手段、時間帯、所要時間、学校到着・出発希望時間） ●休日の移動実態（目的、訪問先、同行者、頻度、手段、時間帯、所要時間） ●公共交通の認識・利用状況（交通手段・最寄りバス停の認識状況、各交通手段の乗車経験の有無、公共交通を利用する状況） ●公共交通に対する要望や公共交通を運行して欲しいところ 等
調査対象	小学生：3,500 人、中学生：約 1,700 人、高校生：約 1,600 人 計：6,800 人 ※調査対象高校：知念高校、向陽高校、南風原高校、南部商業高校、南部工業高校、南部農林高校、糸満高校、沖縄水産高校（予定）

【把握項目】

【分析イメージ】

属性 ・居住地、学年、学校 ・送迎可能な家族の有無	●分析のための基本データ、年代や、居住地、送迎できる家族の有無等に登下校の手段等を把握
登校・下校の実態 ・手段、時間帯、所要時間、学校到着時間 ・希望の学校到着、学校出発時間 等	●学校や地域による移動手段、登下校手段の違いの分析 ●経年比較による希望登校時間と実際の到着時間、希望下校時間と実際の下校時間の差の分析
休日の移動実態 ・目的、移動先、手段 等	●地域や普段の登下校手段による休日の外出先や移動手段の違いの分析 ●移動目的、同行者と移動手段との関係性の分析
公共交通の利用状況 ・認知度、利用の有無 ・公共交通を利用する状況 等	●地域や普段の登下校手段による公共交通の認知度・利用状況の違いの分析 ●経年比較による公共交通の認知・利用状況の改善状況の把握

(3) 人流データによる流動分析

- 人流データを活用して、市内の地域間の移動実態や、市内と市外との移動状況について把握、整理します。

表 3.人流データの集計概要(H30 年度に準拠)

項目	区分
データ集計対象	地区間の移動者数
地区区分	南城市内 18 地区、周辺市町村 16 地区
年代区分	19 歳以下、20 歳代、30 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代以上
居住地	南城市内、その他県内、県外
集計時間	早朝（4～7 時）、朝ピーク（7～9 時）、午前（9～12 時）、午後（12～16 時）、 タピーク（16～19 時）、夜間（19～22 時）、深夜（22 時～4 時）



図-2. 市内の地区分け(案)

（４）交通とまちづくりに向けた検討

- 令和 7 年度に予定している地域公共交通計画策定のための「市民ワークショップ」の開催を見据え、公共交通に興味や関心を持ってもらうための情報発信やイベント等を検討します。

（５）先進事例の収集と視察

- 地域公共交通計画の施策検討や、推進体制検討の参考とするため、関連する先進事例の収集を行うとともに、南城市の課題との類似性が高く、特に参考となる事例については、現地視察を実施します。

【南城市の課題を踏まえた事例収集の視点】

- 路線バスとコミュニティバスの役割分担と連携策
- 観光客の公共交通での来訪・回遊促進
- 休日の利用促進
- 他分野と連携した公共交通の利用促進、運営費の確保
- 大型商業施設周辺の渋滞対策
- バス運転手の確保
- 市民との協働による計画作成、推進体制づくり 等

（６）観光に関する調査

- 観光客の移動実態や移動ニーズを把握するため、人流データより県外客の流動を整理するとともに、南城市観光協会等の観光関係者へのヒアリングにより、観光客の移動ニーズや困っている点、改善要望等を把握します。
- なお、観光客の移動ニーズの把握にあたっては、令和 4 年度に実施された観光客アンケート結果も活用します。